

氏名	伊藤 美重子 ITO Mieko
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 准教授
学位	博士（人文科学）
専門分野	中国古典文学・中国古典語学
URL	
E-mail	ito.mieko@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

中国文学
敦煌文献
漢字
字書

Chinese Literature
Dun-Huang Manuscripts
Chinese Chracter dictionary
Dictionary

主要業績

「敦煌の学郎題記にみる学校と学生」 唐代史研究会 夏期シンポジウム（2010. 8月24日 箱根強羅青雲荘）

研究内容 / Research Pursuits

敦煌写本を資料として、唐末五代の敦煌の生活文化の研究を継続している。本年度では、主に「学校」をキーワードにした研究を行った。また、敦煌文献中に残る「変文」という通俗文学の形式について、「伍子胥変文」を資料として、その形式・内容・特質に関する調査に着手し現在、継続中であり、これらの通俗文学と「学校」の関連について考察することを課題としている。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

学部においては、コア科目「中国語初級」を担当、また、LA科目「ことばと世界」系列の「ことばを探る（演習）」を担当し、漢字をめぐる問題を学生とともに考えた。専門科目では、「中国古典文献講読入門」「中国古典文献講読基礎」を担当し、中国の古典文献を読むためのスキルに関する講義演習をおこなった。また、「中国古典語学講義演習」「中国古典語学講読演習」を担当し、段玉裁『説文解字注』の講読をおこなった。大学院の授業では、敦煌文学作品の講読をおこなった。このほか、卒業論文、修士論文、博士論文の指導をおこなった。

■ 研究計画

現在、課題としている学校と通俗文学の関連に関する考察を継続する。敦煌文献中の通俗文学作品は、寺院の学校の「学士郎」「学郎」などと称される人々によって書写されていることが多く、この現象をどのように考えるかということが一つの課題となり、学郎の文化活動における役割についての考察を進めたい。唐代における通俗文学の資料としては、敦煌文献がその重要な位置をしめて、敦煌の通俗文学作品についての考察は、唐代の通俗文学を考える手がかりとなるものである。

■ メッセージ

中国は文字の国である。甲骨文から現在、中国で用いられている簡体字にいたるまで、脈々と文字文化を伝えてきた国である。漢字文化は中国のみならず、周辺各国にも影響を与え、日本もその例にもれない。漢字や漢字によって書かれた文章を読むことは、同じ漢字文化圏に属するものとしてみずからを発見するよい機会となる。中国文化を学ぶことで、いろいろな発見をしてほしい。